



体験レポート

家族で訪れたキャンプ場、テント設営を終えさっそく息子とMTBを組み立てます。妻を残して、男2人の冒険ツアーに出発です。キャンプ場をでるといきなり登り。小学5年の息子は平気そうなのに最近メタバ気味の私は…マウンテン

バイクの軽いギアに助けられながらなんとか登り切りコースは下りに。「危ないからスピード出しすぎるなよ!」息子に注意しておきながら、森の中の気持ちいい下りについついスピードが出てしまいます。あつという間にY字路へ、右折し国道を目指します。国道へはまたしても下り、下りは楽しいのですが後が…。ほぼ下りっぱなしのまま目的地の幌岡SOUKOUに到着しました。本

当なら名物じゃがールと行きたい所ですが、真夏のサイクリング、身体が冷たいのを求めソフトクリームに。店内には地元農家の新鮮野菜が並び美味しい!キャンプ帰りに車で立ち寄ることを決め、再び出発しました。さあ!2km近く続く登り!息子に引き離されそうになりながら、懸命に冷えたビールの待つゴールを目指しました。

みどころ情報

① エルム高原 オートキャンプ場

- 所在地:赤平市幌岡町392-1
- お問合せ:0125-34-2164
- 営業期間:5月中旬~10月下旬
- 利用料:入場料(入浴券付き)
大人1000円 小人500円
サイト使用料2000円~
- 各サイトに電源、水道、排水など施設が充実しており、テントの持たない方でもケビンを利用すれば、快適キャンプが楽しめます。売店、自動販売機、貸自転車、コインランドリー、シャワー室も完備し、長期滞在にも適しています。



② エルム高原温泉 ゆったり



- 所在地:赤平市幌岡町377
- お問合せ:0125-34-2155
- 営業時間:10:00~21:00
- 休業日:年中無休
- 入浴料:大人500円 小人300円
- 大自然に包まれた森林の澄んだ雰囲気を味わえるエルム高原温泉「ゆったり」。エルム高原を一望できる露天風呂をはじめ、ジャグジー、サウナなど温泉以外にも多彩な入浴が楽しめます。

③ エルム高原 家族旅行村

- 所在地:赤平市幌岡町375
- お問合せ:0125-32-6160
- 営業期間:5月上旬~10月下旬
- サイト使用料:一人500円
- 広大な自然の中でのんびりキャンプを楽しめる家族旅行村。遊び心を満喫できるトリム広場やカスケード(人工の滝)が流れるローンスタジアム、テニスコートもあり、たっぷり楽しんだ後は、バーベキューコーナーでお腹も満腹。温泉も歩いていけるので、便利で楽しいキャンプ場です。



赤平市 ご当地グルメ情報

じゃがール

町おこしの一環として地元市民が中心となり、4年の歳月をかけ完成させた赤平新名物の「じゃがール」。地元の赤じゃがいもを用いたパリッパリの生地に野菜や豚ひき肉などをつつみこんだ食感あふれるボリュームたっぷりのご当地グルメです。味は3種類あり価格も300円前後。子供から大人まで広く親しまれています。

■お問合せ:幌岡SOUKOU 0125-32-6760

がんがん鍋

ストーブをガンガンたいて、ガンガン食べて、ガンガン動いた炭釜の街のイメージを基につくられた赤平名物のがんがん鍋。豚ホルモンをメインに野菜や豆腐を味噌ベースのスープで煮込んだ鍋は、栄養たっぷりです。スタミナアップ間違いなし。炭釜街伝統の味をぜひご賞味ください。

■お問合せ:がんがん鍋協議会
0125-32-2265



④ 赤平よりみちの駅 幌岡SOUKOU

- 所在地:赤平市幌岡町54
- お問合せ:0125-32-6760
- 営業期間:5月~10月
夏期 10:00~17:00
- 休業日:不定休

■よりみちの駅「幌岡SOUKOU」では赤平の情報発信、飲食コーナー、農産物の直売、手づくり工房(お菓子、麺、漬物、惣菜)を設け、春から秋にかけて運営されています。



⑤ フラワーヒルズコミュニティ広場



- 所在地:赤平市幌岡町147-1
- お問合せ:0125-32-5121
(赤平振興公社)
- 緑の芝生が広がり、岩を積み上げた小さな滝が流れる日本庭園作りの広場です。広場内の丘からは赤平の雄大な自然が眺望できます。国道38号線沿いに見える大きなお城の麓にある公園です。

ポイントメモ サイクリングとトラブル回避

●熱中症にならないために

サイクリング中は風を受けて走ることによって涼しさを感じ、脱水状況に気づかず熱中症になる危険性があります。近年では熱中症による死亡事故も多く見受けられます。無理をせず休みながら進むことを心がけましょう。また多量の汗をかくと、水分と同時に塩分も不足します。真水よりも、塩分を含んだスポーツドリンクがオススメです。真水しか手に入らない場合に備え、塩アメなど塩分補給できる食品を携行しましょう。



●道が分からなくなった時



交通量のある道路であれば、車に救助を求めるのが一番。交通量が全くない道では、携帯電話など連絡手段があるなら、警察などに道を聞きましょう。連絡手段の無い場合は、第一に来た道を可能な限り戻る。完全に道を見失った場合、今より細い道に入らない、右左折をできるだけしないを原則に走行し、施設・車・人等を見つけ救助を求めましょう。